

# ダルニー通信

079  
2016  
WINTER

特集

02-03

## ミャンマーの奨学生の現状

04

ラオス少数民族

05

本の寄付のお願い



6

遺贈等のご寄付情報

8

タイ料理レシピ

9

ネットフレンドシップ

10

A C ジャパンの効果

12

カンボジアの高校寮

## 厳しい現実を生きる2人の中2の奨学生

民主化と経済開放が進むミャンマー。海外からの大型投資が引きも切らず、2013年度、14年度の経済成長率は連続して約8%でした。しかし、社会の底辺層にはなかなか光が当たりません。奨学金でヤンゴン市内の中学校に通っている2人の中学生の生活を紹介します。

### ウイン・ワー・テット

家に火をつけてお父さんが家出。日雇い労働のお母さんの月収は4,000円

ウインは5人家族で、祖母（76歳）、母、兄、弟と暮しています。10年前に両親が離婚し、お父さんは家を燃やして逃げてしまい、それ以来、何の連絡もありません。家が燃えてなくなってしまったので、現在は祖母の家に住んでいます。お母さんは日雇いで農作業労働をしています。お母さんは家族を養うため、他人の2倍働き、子どもたちに日々手伝わせています。日雇いのため収入が不安定で、1ヶ月の収入は平均で4,000円ぐらいです。

利子の高い借金があり、返済の目途はたってい



ウインのお母さんと祖母

ません。そんな状況で、お兄さん（16歳）は中学3年生で学校を辞め、働き始めました。現在、工場での就職口を探しています。最近、借金返済のため、祖母の許可をとって家の左側を他人に売りました。しかし、全額を返済することはできませんでした。都市部のミャンマーの子どもたちは、学校のあと塾に通います。塾代は月約1,000円。2人の塾の月謝代が収入の半分とあって、お母さんは乾いた雑巾をさらに絞るように必死で月謝代を捻出していますが、しばしば滞ってしまいます。



家の前に立つウイン。雨季には家が水に囲まれてしまう



## パン・エイ・カイン

叔母さんからご飯をもらっていますが、段々厳しくなっています。

中2のパンは今、お父さんと2人で暮しています。パンが小学校1年生時に両親が離婚してお母さんが家を出て

しまい、以後はお父さんとお姉さんの3人で暮していました。その後、お姉さんが結婚して別の町に住み、今は2～3ヶ月に1回、実家を訪れます（お母さんは今、どこに住んでいるかわかりません）。以前はお父さんが日雇いの仕事をして生活していましたが、お父さんが半年ぐらい前から病気になり、以前ほど働けなくなつたため、近所に住む

叔母さん（父のきょうだい）がご飯を食べさせてくれます。家も叔母の土地に立てさせてもらいました。小さな家です。お金がないために塾に行けません（それで勉強も遅れがちです）。パンは家でご飯の支度、掃除・洗濯など家事をすべてして、さらに叔母さんの家の家事も手伝っているので勉強の時間が十分にありません。

※ミャンマー事務局職員インインの話：「私が訪問した日、パンは風邪気味で咳をしていました。家族の事情を聞いていたら、心細くなつたよう泣き出していました。パンの家族の面倒を見ている叔母さんにも話を聞きましたが、心から心配している様子ではなく、むしろパンの家族には厳しい目を向けていました」

## タイの元奨学生から届いた手紙

元奨学生からタイ事務局に感謝の手紙が届きましたので、抜粋でご紹介します。

私はスパポーン・プロムソーパです。2004～2006年の3年間、奨学金をいただきました。私が中学校に上る前に両親が離婚し、母は再婚して家を出て私たちきょうだいから離れてしまいました。それ以来、母はあまり私たちに会いに来ませんでした。

私たちきょうだい（姉、弟と私）は祖母と4人で粗末な家で暮しました。雨が降るとひどい雨漏りで床一面が水浸し。当時、乗り合いバスで小学校に行きましたが、そのお金もないことがありました。そんなときは、学校で食べる昼食を家でつくることも学校で買うこともできませんでした。

その当時から、できるだけ高い教育を受けて、良い給料をもらって家族の生活を安定させたいと思っていましたが、まず中学校に行けるかどうか心配でした。そんなとき、奨学金が決まって中学校に就学することができました！本当に嬉しかったです。

中学校を無事卒業し、地元の職業訓練高校に入学しました。しかし家から距離があり、通学代や学費を支払うお金が家にはありませんでした。家族のために中学をやめて働いた姉も中学に復学して、まだ中3でした。それで、私は職業訓練校を中退して働き始めました。そして弟が中学を卒業した後、地元のノンフォーマル学校（教育省の認可がない学校）に入学して勉強をやり直し、高校を卒業しました。さらにもっと勉強を続けたかったのですが、私自身が結婚をして子どもができたので、それは諦めました。今、二人目の子どもがおなかの中にいます。今は夫の収入（月2万円）だけで8～9人の家族を養っています。生活は依然、厳しいですが、私の子ども時代よりは良くなりました。支援があったからこそ、勉強が続けられました。教育の機会を提供してくれた支援者の方に感謝します。ありがとうございました。



## 少数民族の立場から見たラオス政府の国民統合政策

ラオスは49民族が80以上の言語を使用している多民族・多言語国家です。公用語はラオ語ですが、全国民の約半分を占める少数民族達の多くはラオ語が話せません。彼ら少数民族達が経験している社会的不平等の歴史的背景について紹介します。



サワンナケート教師養成大学の少数民族学生達と担当の志賀

1893年から60年間、ラオスは（ベトナム、カンボジアなどと一緒に）フランス領インドシナとしてフランスの支配を受けました。独立後、ベトナム戦争や内戦を経て1975年に共産主義政府が設立されました。ラオス政府は痛い目に遭わされたフランスやアメリカを帝国主義国として、その脅威から自国を守る意識が強く、また、それを少数民族も含めた国民統合の手段としても使いました。政府はラオ族がほとんど高位職を占めました。

しかし、共産主義経済政策の失敗で経済が疲弊し、さらに経済が行き詰っているソ連からの支援も期待できなくなりました。ベルリンの壁の崩壊や中国やベトナムの経済開放の流れの中で、ラオスも1990年から経済を開放し積極的に海外援助を受け入れ始めました。そして、ラオ族中心の政府の下で、海外資本と援助の恩恵はメコン川流域に住むラオ族に集中しました。

### ■ラオス国民のアイデンティティ

ラオス政府はこれまでフランス・米国を敵していましたが、一転してこれらの国から海外援助を受けることになったので、反帝国主義を主張してきた政府の政治的正当性が疑われるようになりました。そのため、ラオス政府は慌ててラオスの歴史を

整備し、同じ歴史を共有する「ラオス国民としてのアイデンティティ」を作ろうと試みました。

しかし、できあがった歴史はラオ族の歴史・宗教・文化だけが記載されており、国民の半分程度を占める少数民族達の歴史や文化等は無視されました。また、少数民族の離反を恐れていたラオス政府は、新しい歴史をもとに少数民族に対する強力な同化政策を展開し、その一環として、すべての公立学校でラオ語以外の言語使用を禁じ、少数民族の人々の強制移住などを実施し始めました。こうした政策の結果、適切な教育を受けることができなくなった少数民族達はますます貧しくなり、彼らの文化や言語も失いつつあります。

### ■補助的な使用が認められる

少数民族の権益を保護するため、国際団体や援助機関が抗議を重ねた結果、2000年度半ばに初めて小学校低学年で補助的に少数民族の言語を使用することが許されました。しかし、少数民族の言語を話すことができる教師はごく少数でした。このような状況を改善するため、民際センターは少数民族教師養成事業を開始しました。少数民族出身の教師が増えることで、子どもたちは授業内容が理解でき、学校を中退することも少なくなります。また、少数民族の教育水準が向上することで、自分たちの権利を主張できる力が生じると思われます。

まだ先は遠いのですが、民際センターはこれからも少数民族の子どもたちが教育を通じ、自分たちの文化やアイデンティティを保全していくようサポートしていきたいと思います。

※ラオス少数民族教師養成事業について ——

少数民族出身で教師を志望している学生1人が教員養成短大で勉強するためには、年15万円程度が必要になります。詳細や申し込みはinfo@minsaï.orgまたは03-6457-5782にご連絡ください。

# ミャンマーのシャン族の子どもが通う僧院を訪問



**空っぽの本棚。  
「1ヶ月の食費が100万円で  
本を買う余裕がありません」と僧侶**



約半世紀続いた軍事政権からようやく脱し、民主化に向けて歩み始めたミャンマーの子どもたちを视察するため先日、ヤンゴンを訪問しました。

ヤンゴンでは僧院を视察。この僧院では内戦が続くシャン州から逃げてきた、幼稚園から大学生までの子どもたち137名が学んでいます。シャン族の子どもたちはビルマ語を話せないため、幼稚園児たちは言葉を学ぶことから始めます。小学生101名は僧院の中にある学校に通っています。先生は全部で6名。政府からは3名分の給料しか支給されないため残りは寄付で賄っているそうです。

こここの僧侶、U Hla Kyaw氏(写真上)案内のものと粗末な教室や137人の子どもたちが寝る部屋などを見て回っている時、子どもたちの本棚に目が留まりました(写真左上)。4つある本棚はある企業が寄付してくれたのですが、本がほとんど入っていません。本を買わないのですか?と尋ねたところ「子どもたちは全員住み込みで

3食の食費だけで1か月100万円を超えるため、本を買う余裕がないとのことでした。「私たちは今あるもので十分やっております。しかし将来、子どもたちにもっといい環境で勉強をさせてあげたい。そのため、私たちは節約をして頑張っています」と言いました。

「本の寄付がほしい」とは言わない謙虚なミャンマー人の「いい環境で」という言い方は、控え目な要望のように私は感じました。空っぽの本棚を本で埋めてあげたい、子どもたちに読書をする喜びを味わってもらいたい。そのため皆様のお力を貸していただけないでしょうか。もしご賛同いただけるようでしたら、この僧院へ本を提供するご寄付をよろしくお願いいたします。(担当:関口)



## ラオス

プロジェクト概要：過去に図書箱セットを贈った約1,000校へ本の補充を行うプロジェクト。本には提供者の名前入りのステッカーが貼られます。

- 寄付金額：1口3万5千円
- 本の提供数：約130冊
- 寄付者へのご報告：寄付から約3か月後

## 図書プロジェクト概要

## カンボジア

プロジェクト概要：図書が全くない40校へ図書セットを贈るプロジェクト。図書セットには本箱は含まれません。本には提供者の名前入りのステッカーが貼られます。

- 寄付金額：1口3万5千円
- 本の提供数：約120冊
- 寄付者へのご報告：2017年12月頃

# 誰もが古い支度 ひとりひとりの願いに寄り添う「未来へのプレゼント」

私たちは、毎日何気なくああだ、こうだと言なながら、日々の生活を送ってきてはいますが、人生の後半にも差し掛かると、何かの拍子に、これまでの人生を振り返り、終わりを意識した生き方を考えることが多くなるのではないかと思います。これまで自分なりに悔いのない人生を生きてはきたけれど、自分がいなくなっても喜ばれる何か形として残していくけるものがあれば…、社会に役立つ何かができる…などと考えている方もいらっしゃるのではないかでしょうか。



そんな「未来へのプレゼント」の思いをかなえる方法として「遺贈寄付」「相続財産の寄付」「ご香典、お花料寄付」があり、民際センターでは、これらの寄付を受け付けております。

自分の力ではどうすることもできない貧困と戦いながらも、未来への希望に向かって生きている東南アジアの子どもたちに、教育という形で「未来へのプレゼント」を渡すことができれば、きっと彼／彼女らの心に未来にはばたく力となって残り続けるでしょう。

弊団体は、一人一人の願いに寄り添えるよう、この「未来へのプレゼント」の橋渡しをしてまいります。この「未来へのプレゼント」について、ご関心がございましたら、まずはお気軽にお電話下さい。

## 遺贈

「遺贈」とは、遺言書に「未来へのプレゼント」として、遺産を特定の人や団体へ贈与することを記載し、遺産を贈与することです。「遺贈」は法律行為であるため、法律要件を満たした記載としなければならないことや、遺言通りに財産移転が実行できるよう遺言執行者を決めておく等、いくつか注意しておきたいことがあります。

## ご香典・お花料

ご葬儀等でご香典やお花料をいただいた方々への「お返し」にかえ、弊団体へ「未来へのプレゼント」としてご寄付いただく方法です。故人の生前に託された思いや願い、生前のお人柄を、生前故人とご縁があった方々とともに偲ぶことができます。弊団体は、ご香典返しにかえて弊団体へご寄付いただいた場合の、会葬者への「お礼状」様式を用意しておりますが、ご要望に応じた文案も対応いたします。

## 相続

故人の生前に託された思いや願い、生前のお人柄を尊重するため、相続により取得した財産を「未来へのプレゼント」として弊団体へ寄付する方法です。

誰もがいつかは古い支度をしなくてはならない時期が来ます。

そんなときに、民際センターを相続、遺贈、お花代寄付先の一つとしてご検討いただければ幸いです。

ご遺贈・相談、香典、お花料の寄付に関するご相談はこちら

遺贈担当 橋本：03-6457-5782

3年前にサバナケット県にニコンラオス工場（Nikon Lao Co., Ltd.）を設立したことをきっかけに、2014年度から毎年100人の子どもたちを対象に奨学生を提供する取り組みを行ってきました。ラオスの皆さんとニコンがともに成長・発展したいと願ったからです。

10月5～7日の3日間、ニコンの袴田淑子CSR推進部長が、ラオス・サバナケット県の4つの中学校で生徒や学校関係者を前にこのように挨拶しました。

訪問した4校のうち2校では、4名ずつ計8名の奨学生に奨学金（学用品）を提供し、3校目の学校には学校教材・図書・スポーツ用具の3セットを提供しました（ニコンはサバナケット県の全ての中学校に上記3セットを贈呈する予定です）。

そして最終日に訪問した、ニコンラオス工場の隣にあるOuthoumphone中学高等学校ではコンピュータ10台を寄贈しました。同社一眼レフカメラの製造工程を担うニコンラオスでは、今や1500人弱のラオス人が働き、そのうち約600人が同校の卒業生とのことでした。

遠方からの来客歓迎に開かれたラオス伝統儀式（バーシー）

学用品を手にする奨学生。それぞれが卒業するまで見守ります



## ニコンのラオス支援



## 現地で奨学生等の贈呈式



一つひとつ手作りされた花飾りと国旗を手に歓迎を受けました

1歳の時からずっと曾祖母と二人暮らしという奨学生

今回のラオス訪問では学校だけでなく、奨学生8人の家庭全てを訪問し、家族の方にも話を伺いました。母親が亡くなり、お父さんが家を出て行ってしまい、80歳の曾祖母が近所から食べるものを分けてもらひながら奨学生と暮らしている家庭もありました。どの家庭も、経済事情が厳しいにもかかわらず、精一杯のもてなしと心からの笑顔で迎えてくれました。

学校や家庭を訪問し、奨学生とその家族、先生、村人に会って話をしてすることで、ニコンとラオスの結びつきがより親密になりました3日間でした。

## 焼き魚のりんごサラダ添え

### 材料

(1人前)

魚の切り身 (サワラ、サゴチなど)	1切れ
塩・胡椒	少々
りんご (酸味の強いもの)	1/4個
ホムデーン (アーリーレッド)	2個 (1/8個)
万能ねぎ	1本
パクチー	お好みで
ピーナッツ	大さじ1
ナムラー	大さじ1
A レモン汁	大さじ1
砂糖	小さじ
プリッキースー (生唐辛子)	1~2本
サラダ油	大さじ2~3

### 作り方

- 魚は3~4等分にして、塩、胡椒をふっておく
- ホムデーンはスライス、万能ねぎは小口切り、パクチーはざく切りにする
- ピーナッツは、フライパンで炒って石うすで軽く潰す (または包丁で粗く切る)
- プリッキースーを小口切りにして、Aの調味料を合わせたものに入れる
- りんごを千切りにし、すぐに4の調味料につける
- 5にホムデーン、万能ねぎを合わせる
- フライパンに油を熱して、サワラをこんがり焼く
- 皿にサワラをのせ、6を上にかける
- ピーナッツとパクチーを飾る



### Point!

- タイでは、魚1尾 (尾頭付き) をこんがり揚げて、野菜とハーブたっぷりのソースをかけます。
- そして、りんごではなく青いマンゴーを使います。程よい酸味が美味しい料理です。
- 日本でも春に青いマンゴーが手に入るようになりました。来春は忘れず青いマンゴーで作ってみてください。



西大路有紀子

1995年よりタイ料理を学ぶ。東京池袋の自宅で料理教室を主催。2013年よりチェンマイでベジタリアンタイ料理を学ぶ。1996年よりダルニー奨学金を支援。

## インターネットフレンドシップ校 進んでいます！

タイの中学校生と日本の中学校生がインターネットで国際交流を進める「インターネット・フレンドシップ校交流事業」は今年度、日タイで各44校が参加し、交流が進んでいます。

そんな中、参加校の先生から希望者を募り、総勢10名が7月25日から約5日間、タイの学校教育施設を参観してきました。先ず最初に学校設備が充実し教育レベルが高く、教師・生徒ともに意識の高いタイの王立学校（全寮制のスーパーインススクール）を見学した後、東北地方のサコンナコーン県に移動し、前回ダルニー通信78号で紹介したワン先生の学校（バンラオポーンコーラオラットウィッタヤー校）など4校を訪問しました。

ワン先生の進めるインターネット交流の様子は子どもたちへの配慮がなされていて、日本の先生にとって今後の進め方の参考になりましたし、学校を中心に村をあげての大歓迎で、設備が充実していなくても先生

と地域の方々のサポートで生徒をたくましく成長させることができると感じたようです。また、その学校に通うダルニー奨学生の家庭を訪問し過酷な家庭環境を見先生の1人は「人を変えることのできる教育の力」を実感され、今回の旅行がともて有意義だったと強調されました。

8月26日には、インターネット・フレンドシップ交流事業全国会議を東京・代々木の青少年オリンピックセンターで開催しました。参加校3校について直近の交流実践を報告してもらうほか、上記のタイ学校訪問旅行について報告してもらいました。いずれも報告内容、プレゼンが素晴らしい、中身の濃い会議になりました。来年はインターネットフレンドシップ校交流を含めて、もっと大きなイベントも予定しています。お楽しみに！



2017年 カレンダー

## 「メコンの幸せなひと時」を販売しています！

2017年も皆さんにとって幸せな一年になってほしいという気持ちを込めて、メコン5か国の子どもたちの幸せな瞬間をカレンダーの中に集めてみました（写真上）。経済的に貧しいながら、毎日ささやかな出来事からも幸福を感じている子どもたちの素朴な表情は皆さんに笑顔をお届けすることと思います。

ご注文

<http://www.minsai.org/calendar>  
Eメール info@minsai.org  
TEL 03-6457-5782

1部 1,000円で日本以外にタイ、ラオス、カンボジア、ミャンマー、ベトナムの祝日が分かれます。

# 7月からスタートしたACジャパンの広告効果



電車の中吊広告

前号でお知らせしましたが、7月からテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、電車の中吊でACジャパンの広告がスタートしました。かねてより、ACジャパン事務局から「7月、8月の広告の露出は少ないけれど、9月から本格化します」と聞いていました。

民際センターではさっそく7月と8月の2ヶ月で問い合わせがあった数を県別・メディア別に記録しました。結果は、テレビ：16件、ラジオ：17

件、新聞：35件、車内中吊：6件、その他：15件でした。「その他」というのは、ACジャパンの広告を見たり聞いたりしてのお問い合わせですが、どのメディアか判明できない数です。一方、県別では愛知：6件、東京と神奈川：6件、岐阜、宮崎、香川：各3件でした。県別では新聞広告が大きく影響したようです。

9月に入リテレビCMの放映が増え、1日で10を越える件数のお問い合わせや支援の申し込みがあるようになりました。CMは1年間ですが、今後に大いに期待できます。なお、テレビCMとラジオは弊センターのHPで視聴できますので、ご興味のある方はHPを訪ねてみてください。



雑誌広告

## 6月1日、常任理事会及び臨時評議委員会が開催されました



6月1日、東京・アルカディア市ヶ谷で平成28年度第3回通常理事会が開催され、2015年度の

事業報告及び決算が承認されました。引き続き開催された臨時評議委員会でも事業報告及び決算等の報告がされました。なお、今回から作家・エッセイストの酒井順子さん（写真前列一番右）が評議委員に加わりました。

## 今号からダルニー通信が20ページ→12ページになります

ダルニー通信は75号から、それまで年4回発行を年2回にして、その代わり12ページを20ページに増やしました。しかし、支援者が減り、印刷や郵送などの経費を削減せざるを得ず、今号よりやむなく12ページ（年2回発行）に縮小することになりました。ACジャパンなどで支援者が増えており、また、スタッフも支援者を増やすために鋭意努力しております。今後、支援者が増えるようでしたら、ページ数または発行回数を増やしたいと考えています。よろしく、ご理解のほどお願いいたします。

# 事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

## 地域で奨学生や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽に電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

## 奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

## 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

82円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

## タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

①:タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と82円切手4枚を同封して送ってください。  
②:タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。  
82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。  
※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## 民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、窓口までお問い合わせください。

## 奨学生の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

## 毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、銀行自動引落申込書をご送付いたします。

### 編集後記

7月に久しぶりにタイ東北地方の農村に1泊しました。平日の午後遅い時間、ホストファミリー宅では息子(学校の先生)と暮らす高齢の母のところに娘(息子の姉で、やはり学校の先生)とその娘(孫)が訪ねて雑談などして、静かな時と一緒に過ごしていました。両親を敬うタイなら、さもありなんと思わせる光景でした。しかし一方で、1人暮らしの高齢者が寂しさに耐えかねて自殺する事件も起きているそうです。タイの出生率の激減も注目を集めています。2013年には少子化に悩む日本を下回る1.4でした(日本は1.43)。首都バンコクに限ると0.8だったそうです。バンコクに住む、知人のタイ女性は「彼氏はいるけれど結婚はしない。結婚なんて意味ないもの」と言います。彼女はキッチンの設備がほとんどないワンルームマンションに住み、夕食は屋台で購入します。「だって、屋台で売られている料理は安くて美味しいもの」。タイは「先進国になる前に少子高齢社会に突入するだろう」という経済学者もいます。支援を受けている奨学生の将来だけではなく、タイの少子高齢化社会の行方も気にかかります。(富)



公益財団法人  
**民際センター**

ダルニー通信 第79号 2016年12月1日発行 発行人:秋尾晃正  
公益財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F  
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783  
Eメール:info@minsa.org ホームページ:<http://www.minsai.org/>  
振替口座:00160-7-664928  
(この口座は振込手数料免除口座です。必ず郵便窓口にてその旨お伝えください。)

## コンポンチュナン県の高校の現在の寮の生活

「ダルニー通信76号」で支援をお願いして以来、女子寮建設へのご寄付が増えています。この間、学生たちが自分で建てた掘建て小屋のような現在の女子寮での生活がどのようなものか、少しずつ明らかになってきました。コンポンチュナン県コンポンチュナン市にある高校の例を紹介します。

コンポンチュナン県	小学校	中学校	高校
学校数 (人)	273	60	15
入学者数 (人)	73,908	21,513	9,646
就学率 (%)	94	35	20
卒業率 (%)	87	41	19



生徒が自分たちで  
建てた寮

### ■台所

平日の場合、朝食をとらず、昼と夜の2回のみ食事をします。学校に給食はなく、昼食時に寮に戻り、昼食を作り食べ、夜は昼の余ったものを食べます（冷蔵庫はなく、食べるものを保管する際、ねずみやゴキブリがいることもあります）。昼食を作る際、コンロを外に持ち出して外で作ることが多いようです。食材は両親から送ってもらった米や野菜



60人の男女が  
使用するトイレ

### ■ 現在の寮の建物

寮は学校から1キロ離れた村の私有地に立てられました。土地の所有者が許可し、生徒が自分たちで左の写真のような小屋をいくつも建てました。基本的に男女別ですが、きょうだいやいとこの場合、男女が同じ小屋で暮らすケースもあります。電気代を払えない生徒の場合、乾電池式の電気を使うか、電気がともる友達の部屋で勉強をします。



戸締りが  
できない

で、ご飯を炊き、野菜をスープや漬物にします。週末、生徒は家に帰ります。

### ■ トイレ

寮に住む60人の生徒が1つのトイレ（写真左）を共有します。トイレの中に水を保管する器があり、水は井戸から運びます。学校まで1kmあるので、夜は危険で学校のトイレを使うことはできません。雨季に雨が少ないと井戸の水が無くなることもあります。トイレは排泄物が自然に処理され、排泄物を汲み取る必要はありません。